

各県ブロック動向

◆中部食料品問屋連盟

中部食料品問屋連盟は6月25日、第70期定時総会を名古屋観光ホテルで開催。70回の節目であり正会員・賛助会員合わせて299名が出席し盛大に行われた。

総会開催にあたり永津邦彦会長が挨拶を述べた後、議長に推されて各議案を審議し原案通り承認し、北村篤司会計監事が監査報告を述べた。第五号議案の「役員改選の件」では新会長として永津嘉人氏（トーカン社長）を選出し承認を得て、六代会長に就任した。

続いて中部食料品問屋連盟発足70周年記念式典が執り行われ、功労役員表彰などを行った。記念講演では作家の諸田玲子氏を講師に招き、『語りかけてくる歴史』を演題に、江戸時代の名古屋の繁栄やその背景などを解説し好評を得た。

記念懇親会は青山和暁副会長の開会挨拶で始まり、味の素・久我章良名古屋支社長が「連盟は70年の長きに亘り中部の食の発展に大きな貢献があり、正会員の皆様には常に我々賛助会員の商品を大事に扱っていただいてもらい心より敬意を表します。食品業界はロボットやAIの活躍が著しくなり、ビジネスや生活は劇的に変化しているが、それだけにこうして人の集まる場は重要な意味を持つ。令和の時代も連盟のさらなる発展を期待したい」と乾杯を行い宴に移行し、各所で連盟の歴史を振り返るなど歓談が行われた。宴半ばにキューピー・岩田清司名古屋支店長が「連盟発足70周年おめでとうございます。今は連盟発足時とは違い、食が有り余る状況にも関わらず様々な問題が生まれている。食は体を作り、聞いた言葉が心を作り、話した言葉が未来を作るという言葉がある。発足当時の志を思い出し、食を通じた楽しみの提供などに取り組んでいきたい」と中締めを行い、閉会となった。

中食連「発足70周年記念式典」

中部食料品問屋連盟は発足70周年を迎えたことを記念し、「発足70周年記念式典」を6月25日開催の第70期定時総会に続いて開催した。

式典は六代会長に就任した永津嘉人会長の挨拶に始まり、賛助会員を代表してカゴメ・寺田直行社長が「連盟発足70周年おめでとうございます。前身の愛知食料品問屋連盟の発足以来、中部の食品業界の発展を牽引し、当社だけでなく多くの企業が助力を受けたことに感謝いたします。令和の時代となり、食料品の総需要が縮小傾向にあり、量売って稼ぐ時代は終わりを迎えている。業界団体の役割は原点に戻ると考えている。非競争領域で業界全体のムリ・ムダ・ムラをなくしていく必要がありますと声をあげていきたい」と祝辞を述べ、業界団体を代表し日本加工食品卸協会・奥山則康専務理事が「連盟が70周年を迎えられたことにお祝い申し上げます。食品業界は様々な課題に直面しているが、節目を転機として新たな時代に通用する進化を遂げ、未来につながる中間流通機能を確立していくことが必要と考える。一企業では対処できない課題を解決するためには業界団体の役割が重要となる」と祝辞を述べた。功労役員表彰では会長店として初代会長店・山田商事（現三菱食品）、二代・四代会長店・梅澤（現三井食品）、三代会長店・メイカン（現伊藤忠食品）、五代会長店・トーカン、副会長店として北村商店、昭和、名給、事業運営委員長店として西山商事、事務局として中部飲食料新聞社を表彰。表彰者を代表して、トーカン・永津邦彦相談役が「会員の皆様の前で表彰を頂けて光栄に思います。業界を取り巻く環

境は厳しいものがあるが、歴代の会長が作り上げてきた連盟の運営が我々の現在の姿となる。引き続き身を引き締めて会員一丸となって業界を盛り上げていきたい」とお礼を述べた。

永津嘉人会長 六代会長の大役を仰せつかり身が引き締まる思いにある。連盟の歴史を受け継ぎ、会員の皆様の意見を取り入れ、業界全体の新たな発展に尽力していきます。中部の食品業界は大きな変化を迎えている。厳しい状況のなかでにあり、一企業では対応が難しい課題が多い。連盟として会員相互の親睦を深めつつ、会員一丸となって業界全体の課題に取組み、社会に貢献する組織としての活動を推進し、業界全体のさらなる飛躍につなげる。そのために卸としての機能を真剣に担い、取引先に新たな価値を創造することで中部の食品問屋全体の存在感をより一層高めていきたい。



70周年記念式典 会場

◆大阪府食品卸同業会

大阪府食品卸同業会は6月26日(水)大阪市の太閤園で平成30年度定時総会を開催。正会員と賛助会員110人が参加した。冒頭挨拶に立った魚住直之会長(伊藤忠食品(株))は「食品流通業界は少子高齢化と人口減少による消費量の減少、小売業の態間競争激化による流通再編の加速、消費者の購買行動の多様化などが同時進行し、従来のビジネスモデルだけで対応するのが困難になっている。特にインパクトが大きいのが物流コストで、その削減が最大の課題である」と業界の現状を指摘。その上で「卸とメーカーがコミュニケーションを強化し、互いにメリットのある物流の構築や卸同士の共配も検討すべきだと考えている。市場の縮小も考慮し、無意味な価格競争に歯止めをかけなければならない」と呼びかけた。総会では役員の留任や今年度の活動計画などが承認された。総会に続き日食協の奥山専務理事が登壇し、消費税の軽減税率制度、物流、食品ロスなど業界を取り巻く諸問題への対応について報告した。消費税軽減税率制度については「日本で初めて経験する消費税の複数税率制度が卸の存在があって円滑に導入できたと評価されるよう、残り3ヶ月、手を緩めることなく準備に取り組んでいきたい」と述べた。

◆静岡食品卸同業会

静岡食品卸同業会は、6月28日に静岡グランドホテル中島屋に於いて定時総会を開催した。総会は幹事の小倉圭太郎氏(小倉屋(株))の司会進行で始まり、最初に会長の山口 茂氏(ヤマキ(株))が挨拶し「メーカーさんのご協力を得て、静岡県の食生活の環境を育んでいきたい」と述べた。続いて議案の審議に入り、継続して試食会を実施する事業方針案等を拍手で承認した。続いて新任のメーカー営業責任者が登壇して挨拶し総会は終了した。その後奥山専務理事が「日食協事業活動報告」を行って、懇親会となり閉会した。